

山梨県 笛吹市 春日居町 寺本

寺本古代寺院 (寺本廃寺)

てらもとはいじ



単弁八弁蓮華文軒丸瓦

古代甲斐国最古の寺院跡



中心伽藍^{がらん}推定復元模型（春日居郷土館）



そうけん ほうき のきまるかわら のきひら
創建時（白鳳期）の軒丸瓦（左）と軒平瓦



みくべん てんびょうき からくきもん
複弁軒丸瓦（手前—天平期）と唐草文軒平瓦

仏教伝来と古代寺院

日本に仏教が伝わったのは6世紀前半（『日本書紀』では552年）と考えられています。朝鮮半島の百済の聖明王が金銅の仏像やお経などを欽明天皇に贈りました。天皇はこの仏像を蘇我稲目に与え、稲目は自分の家を改修して安置しました。

稲目の子である馬子はさかんに寺を造り、渡来人の技術と知識を利用して飛鳥の地を開発したようです。馬子のこうした宗教的活動の背景には、物部氏との権力争いを有利に導こうという策略がありました。日本最初の本格的な寺院と言われる飛鳥寺もこうして作られました。

飛鳥寺にならって、大和・河内地方には四天王寺、法隆寺、豊浦寺、坂田寺、橘寺、山田寺なども続々と建てられました。

天皇家・蘇我氏の奉ずる仏教の権威を借りて支配を強化しようと考えた地方の有力者たちも競うように寺を建てたようで、古代甲斐国の豪族たちもこのブームには逆らえなかったでしょう。誰が寺本古代寺院を建てたのかはいぜん不明ですが、今述べたような寺の1つかもしれません。この地は甲斐国の役所跡である国府遺跡に隣接しているので、役所の付属寺院だったかもしれません。ちなみに仏教が7世紀ころすでに甲斐国に入っ



文字瓦：「五千四百」と篋書きしてある。
納品時の枚数を書きつけたもの
か（中門跡出土）？

いた証拠としては春日居町鎮目の「寺の前古墳」から出土した仏具の青銅製の鉢があります。

ところで、寺院の建設には大陸・朝鮮半島の先進技術が不可欠で、測量、設計、土木工事、基礎工事、木工、瓦工、金工、冶金など様々な技術が導入されました。それも数多くの渡来人技術者を招く、工人たちを計画的に配置する、膨大な数量の建築資材を調達する、大勢の労務者に給する食糧を確保する、巨額の賃金や資材購入費を支払う・・・、すべての面で途方もないスケールの問題が持ち上がったはずです。ですから寺本古代寺院の建設は、専門知識をもったプロの集団とその集団を指揮する監督者がいなくてはとても実現できなかったでしょう。



▲正倉院文書に押された甲斐国印の印影、方二寸
（ほぼ6cm角）の大きさ。



▲伽藍域内「山王神社」境内にある丸石道祖神の台座として使われている礎石。



山王神社社殿正面東側に横位に置かれた礎石。
円形の柱座が見える。

寺本古代寺院の位置

寺本古代寺院のある笛吹市春日居町寺本は甲府盆地の東部に位置し、北西に御室山（「山の神」の住む山）があります。東・南には広大な平地と扇状地が広がり、^{ふきがわ}笛吹川とその支流群が耕地を潤しています。水田稲作を大規模に行うには理想的な条件を備えていました。古代甲斐国を経済的に支えたのはこの広大な水田だったのでしょう。

甲斐国4郡の中心である山梨郡は、^{みとみ まきおか}山梨市三富・牧丘地区、甲州市塩山地区から甲府市東端までを含みます。春日居町寺本のすぐ南には「^{こう}国府」（国役所の地）の大字名があり、古代山梨郡のみならず、古代甲斐国の中心でもあったことが分かります。



伽藍（寺の建物群）

1980年代になって実施された3回にわたる発掘調査で、寺の範囲は一辺約130mの正方形で、土壁の塀（^{ついでい}築地塀）で囲まれていることが分かりました。この内側に金堂、講堂、塔、^{かいろう そうぼう}回廊、僧房などが配置され、回廊や築地塀につく中門、^{ちゅうもん なんもん}南門、西門、北門も確認されています。建物の配置は法起寺式という、塔と金堂が東西に並ぶ様式である可能性が高いと考えられています。

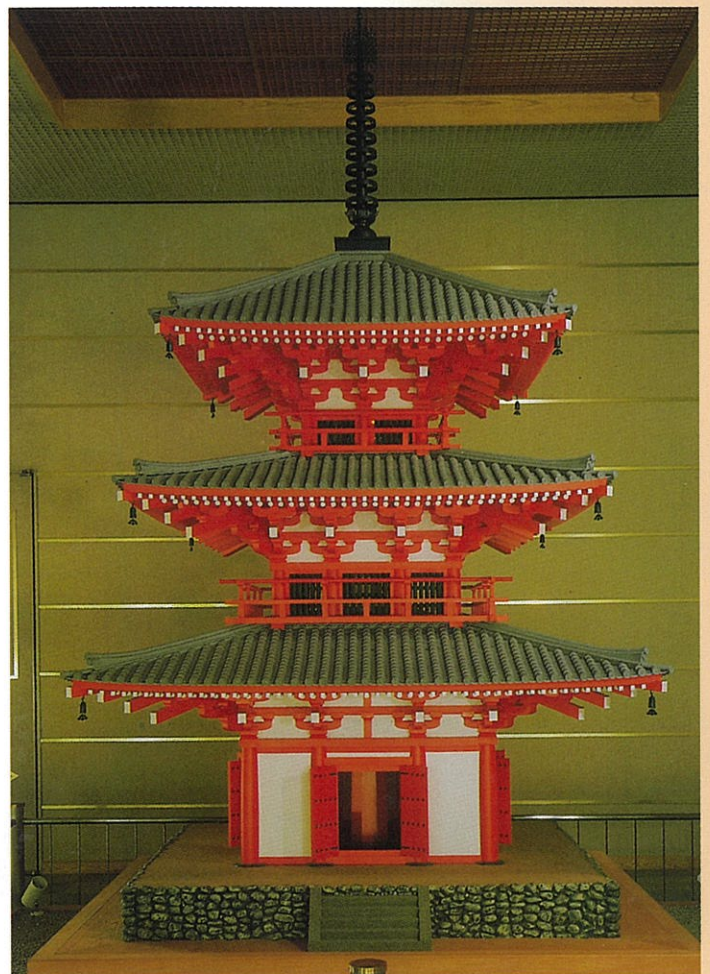
塔は1階の一辺約5.4m（^{てんびょうじゃく}天平尺で18尺）の大きさをもち、その規模から^{さんじゅうのとう}三重塔と推定されます。寺本古代寺院の伽藍配置の特色は講堂が金堂と塔に近接していることで、講堂前の庭は狭かったようです。中門をくぐり抜けて参拝者が目にする光景は、視界すべてを満たす壮麗で異国風の建物だったでしょう。中には金堂また講堂の扉の奥から凝視する仏像の視線を感じて緊張で立ちすくんだ者もいたかもしれません。

庶民はいまだ小さな^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居に住んで、つつましい生活を送っていたので、寺本古代寺院の建物群は、とてもこの世のものとは思えないものと映ったことは容易に想像がつきます。



塔の心礎：長径2.8mで、上部90cmは地表から露出していた。二重の円孔のうち外側が柱座で、直径は98cm。内側は開口部直径62cm、深さ17cm。^{しやりようき}舍利容器その他を納めた孔である。安山岩製。

そんな甲斐国の中心にあって、寺本古代寺院は支配者に権威を与え、甲斐の国が平穏で稔り豊かであることを約束するものでした。金堂（または講堂）には粘土製の巨大な仏像（^{じょうろくぶつ}丈六仏）が鎮座し、見る者を威圧したり、慈悲深く慰めたりしてくれたでしょう。仏像の存在は講堂跡から出土した粘土の破片（肩や袖の部分と^{らほつ}螺髪）で証明されています。ちなみに螺髪の直径は3.3cmで、奈良の「飛鳥大仏」より大きいようです。



▲三重塔復元模型（春日居郷土館）

甲斐国の古代寺院

笛吹市には寺本古代寺院のほか、国指定史跡となっている一宮町の甲斐国分寺・国分尼寺跡があります。また八代町の瑜伽寺隣地では国分尼寺と同じ軒平瓦が発見されています。瑜伽寺には奈良時代の塑像仏も伝わっています（現在は東京国立博物館に収蔵）。さらに春日居町山中にある長谷寺の本堂周辺で布目瓦が見つっています。ほかに古代瓦の発見されている遺跡には一宮町の大積寺跡、御坂町の半行寺遺跡、八代町の久保遺跡・米倉遺跡、境川町の温湯遺跡・室屋遺跡があります。

古代寺院に関連した遺跡は韮崎市、甲府市、甲州市でもわずかに知られていますが、笛吹市の数は圧倒的です。仏教が国を治める重要な思想となったため、古代甲斐国の中心的な役所のあった笛吹市に寺院が多く造られたことは当然と言えます。



▲寺本古代寺院 金堂跡で見つかった瓦の様子。建物はその場で真下に倒壊したらしい。東西約20m、南北約12mの東西方向の棟をもつ。

寺本古代寺院の重要性

古代寺院遺跡の全容はいまだ解明されていません。国分寺・国分尼寺と並んで、寺本古代寺院は豊富な内容を地中に留めており、学術的にも非常に重要な価値をもっています。寺のもつ政治的性格から、古代甲斐国と中央

政権との関係、中央政権の出先機関である役所と在地の豪族との関係、またその影響力の強さなどを知る上で貴重な資料がまだまだたくさん埋まっていると思われます。また仏教寺院ということで、古代甲斐国社会の宗教的様相を明らかにする上でも欠くことのできない遺跡です。さらに、実際の建築とその後の運営に当たっては人と物が大量に動いたことから、社会経済史の観点からも非常に興味深い資料を提供するはずで。寺本古代寺院は単に山梨のみならず、日本の古代全般を考えるうえで大きな貢献をなすものと期待されます。

●アクセス●

J R 中央 線：春日居駅下車 徒歩15分
中央自動車道：一宮御坂 IC 車20分

笛吹市教育委員会 文化財課
〒406-8555 山梨県笛吹市八代町南917
☎055-265-4852 / FAX 055-265-4856

復元模型と遺物の展示は 春日居郷土館へ
〒406-0013 笛吹市春日居町寺本170-1
☎0553-26-5100 / FAX 0553-26-3957

寺本古代寺院の伽藍配置

